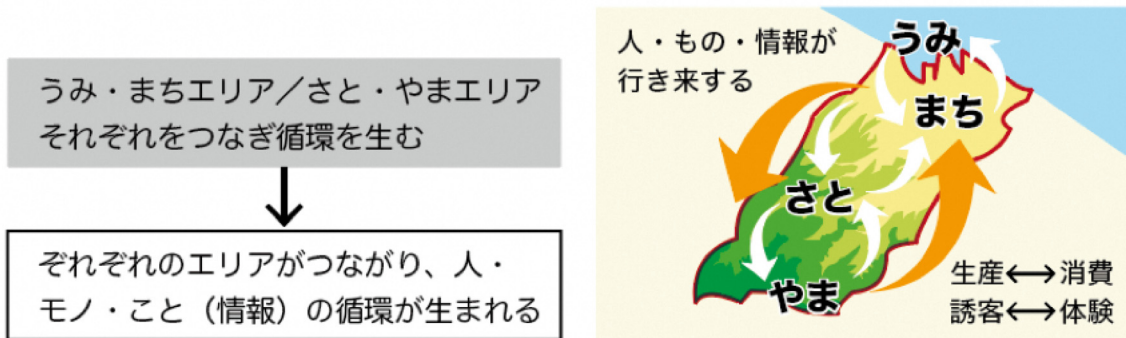
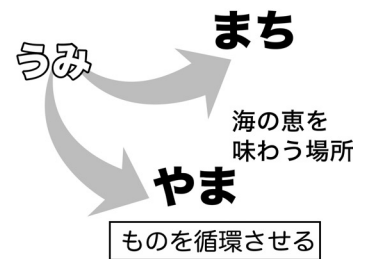


2. 「ハレノヒ」実現プロジェクトにおけるランドデザインの策定

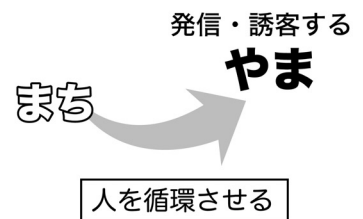
プロジェクトのランドデザイン



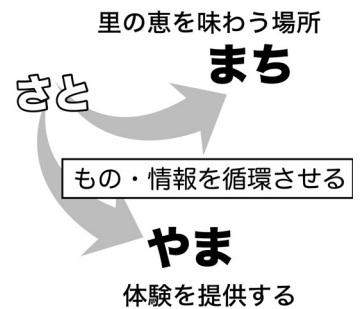
①うみ→「うみてらす」を中心に豊前市の魅力の一つである「海の恵」を体感することができる。豊前市の暮らしや観光滞在の質を向上させる食・観光資源として他エリアとつながり、循環が生まれていく。



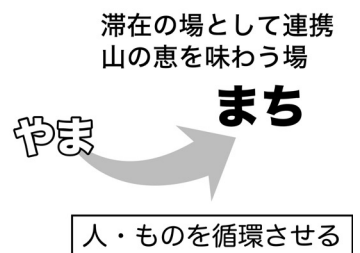
②まち→「宇島駅」「駅前の商店街通り」を中心街区として豊前市の玄関口であり、生活の中核機能を担っている。しかしながらかつての賑わいからは程遠く、エリアの新たな価値づけが求められている。大きな開発ではなく既存建物を活用した小さな拠点づくりを複数行うことで、多様な人の活動つながり、循環が生まれていく。



③さと→農村が広がる穏やかな環境の中で、市民の暮らしの基盤であり、地域固有の生産が続けられている。文化的景観の維持のために生業の持続が求められており、生産力向上や担い手づくりなど課題を解消していくことで、食・文化資源として他エリアとつながり、循環が生まれていく。



④やま→修験道の歴史・文化を今に残す求菩提山とその麓に広がる地域は、現在はキャンプ場などアウトドアレクリエーションの場となっている。歴史・文化のストーリーをさらに活かし、施設やプログラムをグレードアップすることで新たな楽しみ方を見出すなど、魅力の向上に務め、多様な人の活動つながり、循環が生まれていく。



ハレノヒ実現にむけた 活躍拠点整備グランドデザイン

2021.10.31

グランドデザインは、「ハレノヒ」実現に向けて、活躍拠点の考え方と形成のプロセスを示すものです。行政、企業、地域の方々とミッションやアクションを共有し、参画や応援を得るために策定します。



豊前市の課題

- ・人口減少、転出超過
- ・駅周辺や商店街の衰退

豊前市のチャンス

- ・コロナによる都市から郊外への人の流れ
- ・自然やオープンスペースへの関心の高まり

「ハレノヒ」実現プロジェクトとは??

豊前市に少しでも関わりを持つすべての人（=活躍人口）が、豊前市という場所で自分の居場所を持ち活躍できる場や時間（=ハレノヒ）を実現するためのプロジェクトです。
様々な人とともに豊前市に眠る地域資源の磨き上げを行い、多様な「人」にとって魅力のあるまちづくりを目指す、豊前市にとって新たな挑戦です。「豊前市まち・ひと・しごと総合戦略」に基づき取り組んでいます。



ハレノヒ実現の4つの柱

- 駅から始める賑わいづくり事業
- 自然環境整備事業
- 生涯を通じた教育に関する事業
- 地域団体・ボランティアに関する事業

ハレノヒ実現にむけた活躍拠点整備の考え方

- 核となる場づくりから周辺地域へ波及しまち全体が元気になる!
- うみ・まち ↔ さと・やまのヒト・モノ・情報の循環をつくる!

核を際立たせる仕掛け

全体に押し並べた計画を立てるのではなく「核」となる活躍拠点づくりに取り組みます。

●うみ・まち：駅からはじめる賑わいづくり

中心街の核（宇鳥駅周辺・商店街）：海岸線沿いに発達した街道、宇鳥港を背景に豊州鉄道が開通した宇鳥駅を中心に発展してきた、今で言う「商店街」。現在は、いつからか増え始めたシャッターが目立ちます。その状況を諦めることなく、逆に可能性と捉え、有体不動産を活用し、交流・滞在・ビジネスをテーマにした活躍拠点をつくっていきます。

●さと・やま：新たな自然体験づくり

里山エリアの核（求菩提キャンプ場周辺）：かつての修験道の地として、春夏秋冬様々な表情を見せる。史跡や遺構、集落景観など活用資源は豊富にあるものの、その価値が十分に伝わっていません。支えていく組織体制も高齢化が進み、機能の維持も容易なものではありません。ハード、ソフト両面からの改善を試み、活躍拠点としての価値を高めていきます。



線 活躍をつなぎ、ひろげる仕掛け

まちとやまをつなぐし掛け「海」から「まち」、そして「里山」それぞれのエリアを交通手段や共通イメージを持つことによる「行き来していただく」ようなし掛け、あるいは生産や消費を連携させていきます。それぞれのエリアが Win-Win になるようなソフト面でのし掛けなど、点を線をつないでいく「し掛け」を生み出していきます。
豊前市全体で元気になり広域展開へ：市内の場と場、人と人とのつながりが生まれれば、新たなものが生まれる可能性がグッと広がります。小さなまちですが、個々の取り組み同士の間には隙がなく、それぞれの認知も高くありません。また、周辺地域と積極的な連携のもとで事業展開が図れているとはいえない状況です。しかし地道に一つひとつをつなげていけば、網の目のようにネットワークされ、最終的に豊前市全体の動きとなり、空気が変わり、さらには広域展開へのきっかけへと発展していきます。

面 活躍を持続可能にする仕組み

人材の発掘と定着：市内外の人々に活躍の機会を提供し、新たな人材の発掘に取り組みます。また、若者をはじめとする人材の域外流出を防ぎ、活躍が持続循環するための仕組みづくりを行います。
持続可能な体制づくり：4年間で得られた活動成果をもとに、継続的に活躍が生まれ続けるまちにしていけるために、運営母体となる組織づくりや、安定的な資金調達のための仕組みを検証、構築します。

豊前市「ハレノヒ」実現プロジェクト：活躍拠点整備グランドデザイン

活躍するための拠点をづくり、ひとりひとりの活躍をつなぎ、活躍が生まれ続けるまちになる!

ハレノヒのコンセプトは「ひとりひとりが主役となる」です。この事業が目指すものは、まちで活躍する大人の姿を、次代を担う若い世代に伝え、このまちで働く・暮らす魅力を感じてもらうことです。「働いてみたい、暮らしてみたい」という気持ちを、世代を超えてつなげていきます。

そのために、ひとりひとりが活躍するための拠点として、宇鳥駅周辺の中心街や求菩提の麓に広がる里山エリアの地域資源を活用した場を段階的につくっていきます。そして、まち全体の動きとなるよう対象をひろげながら、持続する仕組みを整え、活躍が生まれ続けるまちをつくっていきます。

●産学官民が連携して取り組みます!

- 行政（豊前市役所） 方向性の提示、関連施策との連携、プロモーション
- 企業・市民・NPO等 サービスの実現化、人材・資金等の提供
- 大学・高校等 専門性を生かした助言、人材の提供
- 観光協会 各種連携の調整、プロモーション

| | 2021/R3 | | 2022/R4 | | 2023/R5 | | 2024/R6 | | 目標像 | | | |
|---|--|----|---------|----|---------|----|---------|----|-----|----|--|--|
| | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | | |
| 核を際立たせる仕掛け (まちの核/やまの核) | 活躍拠点① アップル拠点 うみ・まち/さと・やまに、4つの活躍拠点を段階的に形成していきます。まずは、ハレノヒ実現にむけて皆で議論する活躍拠点をづくり、そこを起点に、まち・やまの資源の磨き上げを行います。各エリアの拠点では、エリアに応じて磨き上げるべき機能が異なるため、実践を経て実践を目指します。 | | | | | | | | | | ⇒活躍する拠点が まち/やま できている 「ひとりひとりが主役の豊前市」を象徴する場が中心街と求菩提に完成し、様々な体験やサービスが提供されている状態 | 平均滞在人口 19,271人 →20,000人 (+729) |
| | 活躍拠点② まちの玄関口 駅・駅周辺の磨き上げを通じて、駅のポテンシャルを確認した上で、玄関口のあり方・活用方法を議論し、最終的にはまち全体への波及を目指す 宇鳥駅・周辺の建物を活用した発信・チャレンジの場づくり 駅・駅周辺のあり方を考える「宇鳥みらい会議」 駅・駅周辺一体の磨き上げ 駅周辺一体を活用したイベントや交流コンテンツの展開 | | | | | | | | | | | |
| | 活躍拠点③ 交流・滞在・ビジネスの場づくり 賑わいづくりに向け、既存建物を活用した交流・滞在・ビジネス機能のモデルを実証し、実証化や網の目拡大を図る 資源の発掘・コンテンツ化(自然、食、修験道など)の可能性がある 商店街の既存建物を活用した、まちの交流・滞在・ビジネス機能の常設化 交流・滞在・ビジネス機能の実証および実証実験 新たなサービスの提供 | | | | | | | | | | | |
| | 活躍拠点④ 自然体験拠点 やま/さとの資源を活用して新たな自然体験のコンテンツをつくり、実践を通じて磨き上げ、そのシンボルとなる場を形成する 資源の発掘→コンテンツ化(自然、食、修験道など) やまの既存スペースを活用した新たな自然体験の実証実験(マインドフルネス・ワークショップ等) 新たな自然体験のシンボルづくり 新たな体験コンテンツの提供 | | | | | | | | | | | |
| ひろげる仕掛け | まちとやまをつなぐ仕掛け 一里山の資源(農産物)をまちで消費する循環経済の形成 マルシェの試行(既存空間の活用可能性の検証) マルシェの試行(コンテンツ改善/新たな場の活用検証) | | | | | | | | | | ⇒活躍から生まれた 新たな「資産」が 発信されている まちとやまの核で生まれた場やサービス等が、市全体の活性化を促し、域外から人材を惹き付ける資産となっている状態 | 転入者数 792人 →860人 (+68) |
| | 4つの活躍拠点で磨き上げられる、うみ・まち/さと・やまの資源を生かしたコンテンツは、各拠点で消費促進されるだけでなく、やまの資源はまちへ、まちの資源はやまへと展開していきます。将来的には、まち全体へ、ひいては域外へ広がり始める豊前市の資産に仕上げていきます。 | | | | | | | | | | | |
| 活躍を持続可能にする仕掛け | 人材の発掘/参画と応援の獲得 ハレノヒセミナー/未来会議 高校生プロジェクト 高/チャレンジ人材公募 | | | | | | | | | | ⇒恒常的に活躍が 生まれ続けられる 体制ができている 体験型イベントの開催回数 6回 →26回 (+20) | 4年間だけ活躍人口が増加するのではなく、持続的に活躍がうまれるまちとして、自走できる体制や仕組みが整った状態 |
| | 活躍人口の定着 新たな雇用の創出 チャレンジ人材による創業 持続可能な体制づくり 体制の検討 運営母体の組成 | | | | | | | | | | | |
| 財源を市へ呼び込むための仕組みづくり 企業版ふるさと納税等を活用した活躍財源の確保 | | | | | | | | | | | | |

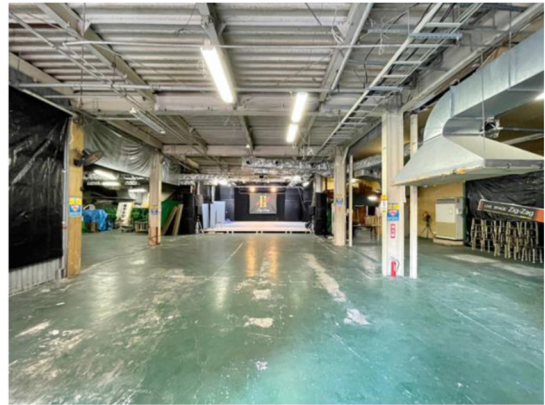
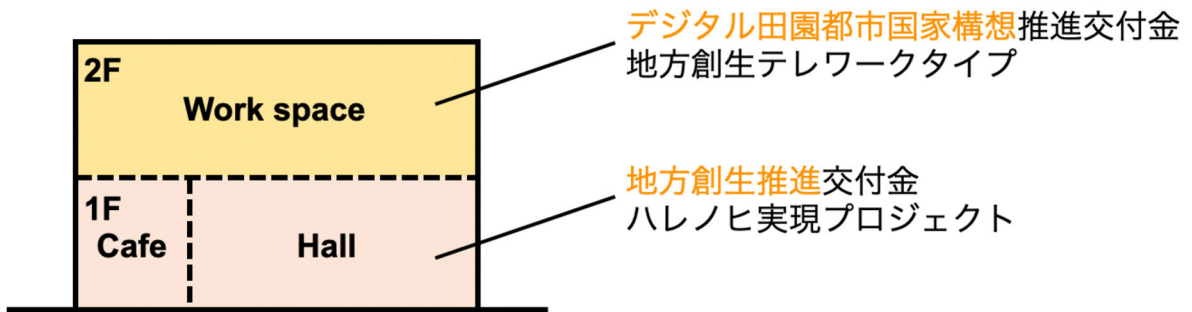
⑤拠点の整備その3 : ZigZag ホール（印刷屋建物）の活用・改修計画

「Zig Zag ホール」を拠点とする意義

- ・これまで市民に愛されてきた親しみのある空間
- ・まずは1Fにくつろぎとエンタメの空間を整備（グレードアップ）

商店街に Work Space=働く場をつくる効果は？

- ・身近に最先端のプロジェクトに関わる会社に触れられる環境
 - ・「デジ田構想」テレワーク交付金を活用というアイデア！
 - ・なんとか年度内に方向づけを→市が所有し、商工会議所に貸している空間
- ★結果、非常にスピード感が高くプロジェクトが実施できることに
- ★ IT 関連企業等の誘致で若者の就労率向上の可能性 UP



③拠点の整備その1：四季堂の活用・改修計画

四季堂を活用する意義

- ・キャンプ場周辺の活性化のためにとっても良い立地
- ・緑に囲まれ、河川に面し、自然環境と一体となった建物
- ★四季堂をいま以上に活かせば（磨けば）さらに良くなる

やまを活かすには＝「心身」の安らぎ（ウェルビーイング）をコンテンツに

★マインドフルネスに代表される 体的・精神的な安らぎを提供

- ・「リトリート（本来の自分に戻るための時間）」が注目されている
- ・日常から離れ、静かな環境で、瞑想・静養をし、食・水によって内側からリフレッシュする（修験道のイメージも馴染みやすい）

